

第 2 層協議体

地域	設置状況	第2回地域共生専門部会での報告	今回の報告
廿日市	未	11地区の任意の福祉関係者をメンバーとし、第2層協議体準備会として「ささえあいのまちづくり情報交換会」を第2層SC主催で、年4回程度開催している。 (令和2年度2回、令和3年度2回予定)	12/7に地域共生社会をテーマに「ささえあいのまちづくり情報交換会」を実施した。実施後にSCが担当地区に聞き取り等を行ない、各地区における地域共生社会の実現につながる取組や活動の把握を進めている。
佐伯	未	社協、行政、包括で、佐伯地域づくり戦略会議を開催し、第2層協議体設置に向けて勉強会を企画・実施しているところである。	佐伯地域づくり戦略会議は各市民センターの参加を得て毎月実施し協議を継続している。また、3層域での取り組みを検討するために、情報共有シートを作成し毎月更新している。認知症の人をはじめ様々な人の居場所づくりについて、在宅介護者の会「リフレッシュクラブ」と共に検討している。1月及び2月の戦略会議はコロナのため中止された。
吉和	済み	生涯暮らし続けられる吉和地域をつくる会 を第2層協議体と位置づけている。コロナ禍で自宅で過ごす人が増えているため、困ったときに電話できる「くらしの電話番号表」を民生委員と支所とともに全戸配布した。	第2層協議体である「生涯暮らし続けられる吉和地域を作る会」が12月3日に開催された。(17人参加) テーマの一つが高齢の一人暮らしの男性の生活支援であり、訪問介護が利用できない休日などの支援を吉和に移住して来た男性が引き受けてくれるなど地道に進んでいる。冬場の「ほっと吉和」への泊りも現在2名の利用があり、15,6名のボランティア対応がある。
大野	済み	既存の 大野福祉推進委員会 を第2層協議体と位置づけている。福祉部及びサロン活動が実施できていない状況であり、コロナ禍での地域活動の研究が必要である。	3月実施予定の第2層協議体「大野福祉推進協議会」では、ヤングケアラーをテーマに議論するなど計画していたが中止が決定された。大野地域全体の会議等は「まん延防止措置」以降は中止となっているが、SCは、区長や福祉部会長、民生・児童委員、サロン世話人、認知症家族会の方とは相談等でつながっている。
宮島	済み	宮島地域コミュニティ推進協議会 を第2層協議体と位置づけている。高齢者を中心とした夜間・休日の緊急介助が地域課題であることを説明し、その対策としてファミサポの活用を提案した。	休日夜間救急支援についてはコミュニティ会長や消防団団長との協議をしている。現状としては、ファミリー・サポートの仕組みを活用し、地域住民のささえあい活動で対応する仕組みの構築を進めている。現在、新規会員は12人。2月以降の地域ケア会議(福祉をすすめる会)では次の解決すべき課題を検討することになっている。

第 3 層協議体

地域	地区	設置状況	第2回地域共生専門部会での報告	今回の報告
廿日市	廿日市	済み	月2回開催。百歳体操を活用した通いの場を運営。今後、子育て・障がいなど、幅広い分野について勉強会を開催する予定。	12/9百歳体操1万人達成セレモニー実施。 2/14コミュニティ会長とこれからの「まち協福祉の会」の活動等について協議し、地域共生社会の実現に向けて、これまでに出会っていない人と出会える機会を現在の活動の延長に作っていくことを確認した。今後は、現在の百歳体操に地域の様々な人たち(障害のある人等)が参加できるよう関係機関の協力を得ながら、その方法を具体化させていく。

(続き)

地域	地区	設置状況	第2回地域共生専門部会での報告	今回の報告
廿日市	平良	済み	不定期開催(年4回程度)。サロン活動を中心に「見守りの場」がある。	サロン再開していたが、コロナにより中止。特にサンサンひろばに関しては慎重に判断されている。SCが聞き取りを行なったところ、福祉部の皆さんの地域での見守りを継続している。
	原	未	協議体として地区の合意を得ていないものの、「原お互いさまネット」では地区の「気になること」の情報共有ができています。	10/12原地区福祉部定例会で「地域のつながり」マップづくり開始。11/7後畑地区出前サロン実施。11/9原お互いさまネット実施。出前サロンで撮影した写真を後畑の対象者に送られて、改めてつながりが強くなったとの報告を代表者からいただいた。その時の様子を社協の広報誌「あいとびあ」に掲載したところ、福祉部の活動に関する問い合わせ等、などの反響があった。
	佐方	未	佐方アイラブ自治会住民福祉事業局へ協議体設置について働きかける予定である。	12/16佐方市民センターで認知症サポーター養成講座を実施した。 12/23合同お茶の会で今後の活動について聞き取りを行なったところ、地域共生社会の考え方に賛同する声が聞かれた一方で、地域の負担を心配する意見もあった。
	串戸	未	串戸地区自治協議会、福祉部、女性部、地域のサロンやサービス事業所等との連携を図っているところである。	11/18串戸地区自治協議会 常任委員会に参加し、串戸地区でのささえあいについて提案し、イメージの共有を図った。2/17常任委員会での説明を受けて、コミュニティ会長、中央民児協会会長、福祉部長と社協SC、福祉総務課職員で協議をし、協議体設置に向けて準備していくことを確認した。
	宮内	未	地理的に広い為、さらに小地域単位での活動を把握して参加する予定である。	12/17サロン世話人会を実施。今後もサロン世話人を中心として他の主体を呼び込むながら話し合いの場を持つ予定。
	宮園	未	宮園地区社協や地域自治組織等との連携を深め関係構築に努めている。	11/27ほほえみ宮園に参加。2/18宮園地区社協、ほほえみ宮園のメンバーと社協(SC、他事業担当者)と協議の場を持った。
	四季が丘	未	四季が丘地区社協と連携。サロン運営会議に参加し、地域課題に関する情報提供を行っているところである。	引き続き運営会議に参加し、引き続き地域の課題等を確認していく。認知症のため外出したまま自宅に帰れなくなった事例が増えている。また、家族が認知症であることを周囲に話すことができず、抱え込んで苦しい思いをしている人が増えている。11/20四季が丘市民センターで認知症サポーター養成講座実施。今後は、町内会活動組織(町内会連合会、コミュニティづくり協議会)の統合にともない、四季が丘地区社協組織が関係団体から構成団体になる。この機会に地区社協が協議体機能を担うことができるよう支援していく。
	地御前	未	サロンや自治会と関係を築き、地域について考える場を設ける予定である。	10/7自治協役員(会長含む)から聞き取り実施。子ども食堂に関心を寄せており、11/20に市内の子ども食堂視察。その後、子ども食堂の計画が場所の確保の関係で延期となった。年度内にリモートを活用して協議の場を持つ予定。

(続き)

地域	地区	設置状況	第2回地域共生専門部会での報告	今回の報告
廿日市	阿品	未	「阿品地区の地域福祉を学ぶ会」との連携。3丁目、4丁目の民生委員、町内会長等と集まりの場を持つ予定である。	11/6阿品地区の地域福祉を学ぶ会を実施し、防災に関する話題が住民から挙がった。1月予定の「阿品地区の福祉を学ぶ会」が延期となっているが、会議開催が可能となれば、3/19に町内の気になること等について話し合い、マッピング作業を行う予定である。
	阿品台	未	サロン同士の交流やコミュニティ福祉部への働きかけを行っている。	阿品台地区のサロン世話人会を実施できないか検討している。夢あじなを開催していた場所が使用できなくなり、阿品台市民センターに移転した。常設の実施が難しくなったため、次の実施に向けての相談を受けている。今後は阿品台地区サロン世話人会を組織化し、阿品台地区の協議体機能の一端を担えるよう働きかけていく予定。
佐伯	津田・四和	未	・佐伯地域づくり戦略会議に市民センターの各所長が参加し、それぞれの地区へのアプローチについて協議しているところである。	「福祉委員」から地域福祉推進に対して思いのある方に働きかけ、コミュニティ福祉部への参画を促し、協議体の機能を持てるよう働きかけていく。まずは津田・四和地区、その後浅原、友和、玖島へと広げていく。11/25、津田・四和の皆さんと包括、支所、社協の担当者が大野の「楽らく」へ訪問研修をした。 浅原地区で11/4(14名)、玖島地区で11/29(10名)の2回出前サロンを実施した。
	友和	未	・コロナの影響で、各地区へのヒアリングが進んでいないが、今後、4地区の様々な集まり（役員会や総会）に出向き、地域住民との連携を図り、話し合いの場づくり（協議体づくり）を行っていく予定である。	
	浅原	未		
	玖島	未		
吉和		済み	第2層と同じ。（SCが包括ランチ、支所、診療所と連絡調整して、地域課題の抽出や問題提起を行っている。）	地域ケア会議との連動を意識した3層協議体の運営を行っている。地域ケア会議であがった事例を分析し、地域課題を見立て、3層協議体で協議する一連の流れを確認している。 また、現在実施している「多機能サロン」を認知症カフェ的な認知症の人も居心地のよい集まりの場としての機能を付加していく。
大野	1区	未	サロンやコミュニティバスなど、区が課題別に話し合いの場があるが、協議体の仕組みにはなっていない。コミュニティバスについては、運転手の確保が課題であり、今年度、まちづくりチャレンジ応援補助金を得て、運転ボランティアの育成等に取り組むことを把握している。	福祉部会の活動を活性化するため視察研修会を計画。訪問先や研修内容を福祉部会長と検討し、以下の通り決定したがコロナ禍のため中止。来年度、改めて実施する予定。 視察先：三原市NPO法人三原ダイヤサロン 内容：ふれあいあいサロン活動～NPO立ち上げから現在に至るまでの経緯・活動及びサロン見学
	2区	済み	福祉マップ作成に取り組んでいる。	配食サービスの給食ボランティアが勉強会を開催予定(3/27)。配食サービスの意義や他市町の給食ボランティア活動等の情報提供をすることを予定。
	3区	未	サロン訪問等を通じて福祉部との連携、及び情報収集等を行なっている。	3区民生委員研修会に参加し、身寄りを無くした単身高齢者が増加していると問題といった地域の課題を把握した。また、合わせて社協事業を説明し今後の連携強化をお願いした。

(続き)

地域	地区	設置状況	第2回地域共生専門部会での報告	今回の報告
大野	4区	未	区長、及び福祉部会長に協議体の説明を行い、部会で協議体設置の説明の場の提供をお願いしているが、現在中断中である。	4区民生委員研修会に参加し、ワクチン接種に関する地域でできる助け合い、子ども110番の見直しといった地域の取組を把握した。また、合わせて社協事業を説明し今後の連携強化をお願いした。
	5区	未	配食サービス活動で住民同士の見守り活動を実施しているが、現在中止している。	活動休止していた配食サービスを1月から開始予定であったが、再びコロナ禍のため休止することとなった。別の方法で見守り活動ができないか福祉部会と模索中である。
	6区	未	サロン訪問等を通じて福祉部との連携、及び情報収集等を行なっている。	サロン訪問や福祉部会長との面談等を通じ地域の情報収集につとめている。
	7区	未	地域づくり会議(支所関係課間)を通して、アプローチしていく予定。	11/18「大野地域の地域づくりを考える会(健康福祉G、地域づくりG、包括おおの、SC)」で、7区主催の百歳体操の実施や、子育て親子も一緒に集える場づくりについて支援できることはないか検討した。このことについて、区長に提案したところ、7区ではおもと会主催の百歳体操があり、区民も参加できるため新たに、区主催の百歳体操をしなくても広く交流できることがわかった。また、保健師が子育ての孤立が課題であることを伝えたところ、赤ちゃんを連れた子育て世代が集う場の必要性を受け止められ、区主催の鯛山サロンの中で子育てサロンで進めていくことになった。高齢者への年末の見守りを兼ねたおせち料理配布を今年度も行なうことになり、支援した。
	8区	済み	福祉のまち推進事業として「MSK活動」を展開している。	百歳体操が2か所に広がり通いの場が増えている。区長を中心に防災井戸マップを作成し、他市町でも先進的な取り組みとして紹介されている
	9区	済み	現在、活動再開に向け準備中。	アンケート(75歳以上を対象に普段の暮らしの困りごと)でニーズを抽出されたことに対し、課題解決に向けて活動するための協議が始まっている。ボランティアチームを年度内に募集するべく住民が取り組んでいることにSCも情報を提供するなどの支援をしている(県内での取り組みやだんだんプラスなど)
	10区	済み	既存の3つのサロンを統合し、子どもから高齢者まで全区民が集えるサロンを開設した。	新たにサロンを立ち上げたいという声(若い世代)を受け、地区全体の活動となるよう、地区関係者につなげた。12/12役員や住民30名が参加して茶話会を開催した。多世代が参加できるサロンとして展開していく予定。
宮島	11区	未	「高齢者等移送サービス事業」を通じ、区役員会に参画し課題解決に向け、住民とともに協議を進めている。	「こぶしの里松が原」がオープンしたことを大野地域版広報「ふれまちだより」及び社協広報「あいとびあ」に記載したことで、地域外からの訪問者が増えた。 また、引きこもり状態にあった高齢者の出かけるきっかけにもなり、畑を提供してくれる人、技術を提供してくれる人が増えた。 地域の居場所として、活用していきたいとの思いがあり、社協の事業等とも連携して行く予定である。
			夜間・休日の緊急介助に対するファミサポの活用について協議しているところである。	11/30の地域ケア会議では、①ショートステイ(島外事業所)の利用時の送迎の問題(宮島口まで自力で移動する必要がある。)、②島内の公共交通の問題(夕方以降の移動手段。これまで近隣で乗り合っていたが免許返納が進み、それが困難となっている)という課題が出された。3/22開催予定の宮島地域の福祉を考える会では、必要な基礎データ等を持ち寄り、上記①の課題について協議、検討する予定。